「自助」「共助」「協働」で災害に強い街づくりをめざそう！

岸根町町内会自主防災だより　（第３号）

２０２２年（令和４年）１１月　自主防災部発行

地震が発生すると家庭などでは、ライフラインに影響がでることが予測されます。
大きなものとして、**①停電、②断水、③ガスの遮断**などがあります。
これから本格的な冬を迎え、寒さも一段と厳しい時期となります。ライフラインに関する事前対策をしっかりしておきましょう。今回は、**ライフラインの地震対策**についてです。

①電気について（東京電力パワーグリッド株式会社の資料を参照しました。）

地震が起きたときに発生した**火災の原因**を調べると、東日本大震災では電気関係が５４％と半数をしめていました。地震による火災を防止するために、次のことに注意しましょう。

- グラッときたら使用中の電気ストーブやアイロンはスイッチを切り、使っていない電気器具のプラグを抜きましょう。
- テレビや冷蔵庫などの大型電気製品は、転倒防止対策をしっかりと！
- テレビのプラグに水がかかると、発火するおそれがあります。テレビの近くに水槽や花瓶を置かないようにしましょう。
- 電気製品が燃えたときは、適応した消火器で消火しましょう。消火器は近くにありますか。
- 避難するときは、必ずブレカーを切りましょう。（ブレカーの位置を確認しておきましょう）
- 大地震後の通電火災に備えるために、**感震ブレーカー**を取り付けましょう。
- 携帯電話も電池切れで使用できなくなります。専用の充電器（ソーラーチャージャー）などもあると役立ちます。

②水の確保について

ライフラインの断絶で一番困ったことは**水の確保**があります。トイレや洗濯や風呂の制限が予測されます。トイレの水は２０ℓのポリタンク２個を水運びしたとの感想もありました。

- 日頃から飲料水の備蓄、お風呂に水をためておくことを勧めます。
- 簡易トイレなども備え付けておくと活用できます。
- 飲料水の確保は、７日以上、困難な場合は３日分備蓄しましょう。

③ガスの遮断について

都市ガスは、ガス導管に被害を及ぼすような大きな揺れを感知した地区ガバナではガス供給を自動遮断し、ブロック単位でガス供給を停止するようになっています。一般の家庭では、マイコンメータが震度５程度以上の揺れを感知すると**安全装置が作動し、ガス供給を自動的に遮断**するシステムになっています。（復旧操作はユーチューブで見ることができます。）東京ガス参照。

プロパンガスは、各家庭にマイコンメーターが設置されています。震度５以上の地震を感知すると**自動的にガスを遮断し、二次被害を未然に防ぐ仕組み**になっています。

ガス器具などを設置している台所には火災予防上、**棚からの落下防止や可燃物などを近くに、置かないよう整理・整頓しておきましょう。**簡易コンロなども用意しておくと役立ちます。